

令和2年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞

「未来をつくる税金」

柏市立柏第五中学校 三年 小倉 萌夏

受験勉強のやる気を出すために、文房具を買い揃えに行った。レジで会計を済ませた後、「あれ、思っていたよりも高かったな。」

そんなことを思った。消費税を計算していなかったのだ。十パーセントって意外と大きいな。正直、私のおこづかいから支出する消費税は大きいと思う。中三から社会で公民の授業が始まった。私は税金の使われ方をいろいろ学んだ。税金は高い、税金なんてなかったらいいのになど、あまり良いイメージがない税金について、税金のない世界を想像してみることにした。

私達の通っている学校や毎日使う道路には、税金が使われている。もし税金がなかったら、全て自己負担になり、年間何百万もかかる学校に、行きたくても行けない人がでてくるかもしれない。最終学歴が幼稚園の子がでてきたら、格差が大きくなり社会がうまくまわらなくなるだろう。道路もガタガタだと、老人や小さな子供は歩きづらく転んでしまうかもしれない。そんな時かかる病院代も、税金がなければ高額な診療費や薬代を請求されて支払えず、病气やけがを治せる人も少なくなってしまうだろう。急病人が出たとき、お金のことも考えながら救急車を呼ぶのはとてもストレスだし、救える命も救えなくなってしまうかもしれない。警察官や消防を呼ぶときにもお金がかかる。事故や火災がおきたらと思うと、心配性の私は考えただけで不安になってしまった。もし税金がなくなったら、当たり前だと思っていた生活が大きく変わってしまうのだ。近頃、台風や大雨の被害や大きな地震などの災害も多い。災害が起きた時に救助や復旧などにも税金が使われている。その他にも科学技術の発展や海外援助にも使われていると思う。税金は私たちの暮らしを支え豊かにするものや、世界で困っている人達のために使われている。また、COVID19の流行で国民の生活も大きく変わってきていると思えます。失業率の悪化や倒産の急増など、経済情勢は厳しさを増しています。そんな時も、国は国民の生活と命を守る税金の使い方を考えて、保障や給付金などで援助をしてくれました。このような緊急事態にも対応できるのが、税金のいいところなんだと思います。誰かの納めた税金に私の生活は助けられ、私の支払った税金も知らない人達を助けている。この支え合いが、税金の存在なんだと思う。いま納めている税金は、今の生活だけではなく、未来の人達、これから生まれてくる人達の社会もつくると思うと、私も社会の一員になれた気がして嬉しい。税金は高いな、できれば支払いたくないな、と思う私はもういません。今の私は、まだ消費税くらいしか納めていないけれど、税金のありがたさを感じ、貢献していきたいと思っています。